

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和4年3月31日現在

| 研究課題名        | 樺太（サハリン）に関する学際的研究－国境変動により何が起きるのか－ |                         |                                      |                  |                      |
|--------------|-----------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|------------------|----------------------|
| 申請者<br>（代表者） | 氏名                                |                         | 所属機関・職                               |                  |                      |
|              | 醍醐 龍馬                             |                         | 小樽商科大学商学部・准教授                        |                  |                      |
| 研究構成員        | 氏名                                | 所属機関・職                  | 専門分野                                 | 役割分担             |                      |
|              | 1                                 | 醍醐龍馬                    | 小樽商科大学商学部准教授                         | 日本政治外交史、日露関係史    | 樺太千島交換条約後の明治政府の朝鮮政策  |
|              | 2                                 | 藤本健太郎                   | 日本学術振興会特別研究員PD(東北大学)                 | ロシア政治外交史、日露関係史   | 日ソ基本条約後のソ連の外交政策      |
|              | 3                                 | 高橋亮一                    | 日本学術振興会特別研究員 DC1、國學院大學大学院文学研究科博士後期課程 | 日本近現代史           | 日露戦後の漁業権拡大に伴う経済水域設定  |
|              | 4                                 | 小野博司                    | 神戸大学大学院法学研究科教授                       | 日本法制史            | シベリア出兵期の北樺太軍政と法制度    |
|              | 5                                 | 宮田賢人                    | 小樽商科大学商学部准教授                         | 法哲学              | 南洋との比較における南樺太への法秩序扶植 |
|              | 6                                 | 須川忠輝                    | 大阪大学大学院法学研究科特任研究員                    | 行政学、地方自治論        | 日露戦後の南樺太への地方自治制度導入   |
|              | 7                                 | 野間俊希                    | 国立国会図書館職員、大阪大学大学院法学研究科博士後期課程在籍       | 日本政治外交史、図書館学     | 第二次世界大戦後の在樺太財産請求権問題  |
|              | 8                                 | 吉良悟                     | 大阪経済法科大学国際学部助教                       | 国際法学             | 第二次世界大戦後の宗谷海峡と累積理論   |
|              | 9                                 | 菅原慶郎                    | 小樽市総合博物館学芸員、小樽商科大学客員研究員              | 日本経済史            | 日露戦後の南樺太と小樽の経済交流     |
|              | 10                                | 鈴木仁                     | 北海道大学大学院文学研究科専門研究員                   | 日本文化史            | 南樺太における社会資本の整備       |
|              | 11                                | 早川尚志                    | 名古屋大学高等研究院特任助教                       | 交通史、環境史          | 日本統治期とソ連統治期の交通路の変化   |
| 12           | 兎内勇津流                             | 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター准教授 | ロシア史、図書館学                            | 班員への樺太関係文献のアドバイス |                      |

## 研究成果の概要

国境変動により何が起きるのか。従来、国境を対象とした研究は、国境問題の解決過程に分析が集中しており、国境問題の解決が国内外に与える影響は注目度が低かった。そこで、本研究では、恒常的に定住者が存在し、国境変動のヴァリエーションが近代史上類を見ない樺太（サハリン）を事例として、中長期的な観点から、国境変動が境界地域を含む国内外にいかなる影響を与えたのかを、学際的アプローチによって解明することを目指した。研究に際しては、外交に加え、経済、統治、社会の各班を編成

**研究成果の概要（続き）**

し、外交面に留まらない国境変動の多面的な影響を分析すると共に、下記の通り、定期的に研究会を開催することで、異なる専門性を有するメンバー間での分野横断的な研究交流を実施した。また、一部の研究会を一般に公開し、研究成果の外部への発表を積極的に行った。

2021年5月30日 第1回例会（鈴木、醍醐）

2021年8月23日 第2回例会（小野） ※第9回シベリア出兵史研究会との共催

2021年9月2日 共同研究班（境界研究）特別セミナー「北方史と南方史の邂逅」（菅原） ※他研究班との交流・一般公開

2022年1月22日 第3回例会（宮田、野間、吉良、早川）

2022年2月7日 共同研究班成果報告会（藤本、高橋、須川） ※一般公開

本研究により、国境変動の前後で生じた国内あるいは国家間の諸領域での変化が、単独ではなく連関して作用していることを実証し、国際関係と密接に連動する境界地域特有の発展プロセスの一端を明らかにした。その成果は、ボーダースタディーズの発展に寄与するものであり、北方領土を含む現存する国境問題の将来を検討する上でも重要な参照項となり得る。

**主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。**

【図書】 鈴木仁・山名俊介『樺太庁長官物語』全国樺太連盟、2021年。

【雑誌論文】 兎内勇津流「戦前のクリル諸島とサハリン島」、宮脇昇編『国境の時代』大学教育出版、2022年4月刊行予定。

醍醐龍馬「黒田清隆の樺太放棄運動―日露国境問題をめぐる国内対立」『年報政治学』2021-I号、132-154頁、2021年（第3回日本政治学会若手論文優秀賞受賞）。

醍醐龍馬「長崎稲佐ロシア海軍基地をめぐる明治初期日露関係―借地交渉とその意義」『スラヴ研究』68号、45-70頁、2021年。

Hayakawa, H., Oliveira, D. M., Shea, M. A., Smart, D. F., Blake, S. P., Hattori, K., Bhaskar, A. T., Curto, J. J., Franco, D. R., Ebihara, Y. (2022) The extreme solar and geomagnetic storms on 1940 March 20-25, *Monthly Notices of the Royal Astronomical Society* in press, DOI: 10.1093/mnras/stab3615（謝辞あり）。

【MISC】 菅原慶郎「岡田八十次による小樽を通じたサハリン島の漁場経営」『月間小樽學』150号、13-15頁、2021年。

【翻訳】 ラジスラフ・ラトウシシェフ、ガリーナ・ツダレツ/共著、醍醐龍馬、兎内勇津流/共訳「1869年から1870年までのサハリンとアムール地方における侍従武官長イヴァン・スコルコフの委員会」『小樽商科大学人文研究』第143輯、2022年。（謝辞あり）

【学会発表】 小野博司「明治国家における占領地法の成立と展開」法制史学会第72回総会・研究大会（2021年11月、於同志社大学・オンライン参加）。

**当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）**

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。